



引きこもり連続セミナー 引きこもりの理解を深めるために

第1回「ひきこもりってどんなこと」

平成21年度座間市市民自主企画講座「ひきこもりセミナー」第1回が、6月13日に行われました。

この日は、CLCA(子どもと生活文化協会)会長 和田重宏先生の講話があり27人の参加がありました。この時の講話を要約すると、次のようになります。

現在不登校経験者の4割がひきこもり化しており、共通して人との繋がりが苦手で、家の中に閉じこもり孤立化していく現象が、ひきこもりの特徴とされています。

現代社会が効率性を追求して、便利な社会環境となりましたが、それがバーチャル体験と実体験のアンバランスを生み出し、そのうねりの中で親子共に苦しんでいる状況になってきています。

では、この「ひきこもり」をどうしたらいいのか、この問題はひきこもり家族だけで解決できるものではなく、教育・福祉・精神保健・雇用の関係機関のトータルの連携が必要です。

いわゆる、ソーシャルファーム(社会的組織)の設立が必要ではないかと和田先生は指摘していました。

「ひきこもり」はそこまで深刻になっており、親子共に「家」以外の居場所の必要性を切実に感じました。



皆で麦刈り



6月16日小田原から麦刈りお助け隊が沢山やって来てくれました。天気を心配していましたが、暑くもなし寒くもない麦刈り日和で上手に、もくもくと頑張って麦が刈れました。刈り取った麦を束ね、次は脱穀です。足で機械を回しながら、手で麦を動かす、調子を取るのが大変難しそうです。でも皆上手に出来ました。今年はよく乾いているようで、実離れも良いようです。この次の機械はトウミで、小麦とモミガラを分けます。クルクル手動で疲れる程まわし、風を起こしてモミガラを飛ばします。風が強すぎても弱くてもだめで、お助け隊の若い人達の力があり大助かりでした。手にマメを作った子もいたようでした。



大勢のボランティアさんの力も加わり、総勢 29 名で働いた後の会食会も盛り上がりしました。畑で取れたばかりの胡瓜や真っ白に粉が吹いた、ゆでジャガイモの美味しかったこと。満腹のお腹で午後も、もう一頑張りです。

9月には製粉して、またうどん作りを楽しみます。

